

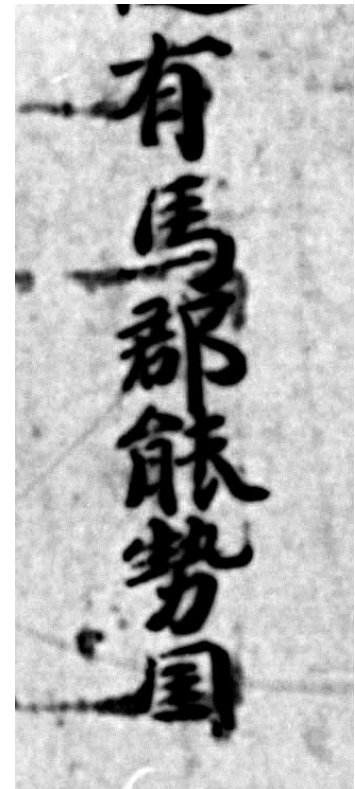
## 古代有馬郡のなぞ

今から54年前、昭和33年7月1日に三田市が誕生する以前の市域は有馬郡三田町と呼ばれていました。兵庫県立有馬高等学校の名称はその名残ですが、当時の有馬郡は三田町1町のみでしたので、その市制施行により郡の名は消滅しました。もともと有馬郡は、南は現在の神戸市北区有馬町、東は西宮市の生瀬から、北と西は三田市に至る南北に長い区域でしたが、「昭和の大合併」で区域を構成する町村が徐々に減少し、市域のみが最後まで残ったのでした。

大正15(1926)年に郡役所が廃止されて以降、郡は実質的に地名として機能するのみでした。しかしその起源はいわゆる大化の改新(645年)の頃までさかのぼるとされ、大変古い歴史をもちます。この区画が定められた当初は郡ではなく、<sup>ひょう</sup>評と呼ばれていました。近隣でも神戸市北区長尾町の遺跡から「評」の文字が書かれた土器片が出土しています(市史第8巻写真350)。そこには残念ながら地名に相当する文字が書かれていないので、この近辺が当時何という評であったのかは今のところ不明です。

有馬郡という地名が古代の文字として見える現存最古の資料は、天平3(731)年の年号をもち大阪市の住吉大社しんぼうに神宝として伝えられる「住吉大社神代記」<sup>すみよしだいしゃじんだいき</sup>です(市史第3巻36頁)。しかし現存する神宝が書かれたのは平安時代初期ではないかとする説もあり、市域が属した奈良時代以前の郡の名称や表記は厳密には確認できません。ただし現在の有馬温泉については、奈良時代の日本書紀や万葉集に名称が幾度か登場します。現存する資料はすべて後世の写しですが、それらには共通して「有間」または「在間」と書かれています(第3巻7頁ほか)。ちなみに悲劇の逸話と万葉集の歌で有名な孝徳天皇の皇子の名も「有間」と書かれています。「有馬」の表記が定着するのは平安時代以降からです。

なお高平地区の大部分は明治29(1896)年までは川辺郡に属しましたが、古代における有馬郡と川辺郡の境界についても議論があります(市史第1巻)。このように市域の古代史では基本的な事柄が未解明です。新たな資料の発見が期待されるところです。



現存最古の「有馬郡」の表記(住吉大社蔵)